

〔本朝世事談綺態〕香道

十種名香 東大寺 法隆寺 逍遙 三芳野 枯木 法華經 紅塵 八橋 中川 盧橘等也
此外追加六種の名香、又五十種の名香あり、又七十種の名香、百八十六種の名香をはじめ、數品の香あり、

〔織田信長譜〕天正二年三月廿三日、信長奏聞禁裏、廿七日、赴奈良居多門、開東大寺秘府、截黃熟香俗待關著 日野大納言某、飛鳥井中納言雅教爲勅使、佐久間右衛門尉信盛、菅屋九右衛門、塙九郎左衛門、蜂屋兵庫頭、武井夕庵、松井友閑奉行之、截之一寸八分也、信長取其三之一、以其二配授諸士、

〔信長記〕七、蘭奢待被截事

三月○天正十二年、信長公御上洛有テ相國寺苑、蘭院ニゾ御座マス、同廿三日、南都東大寺、蘭奢待御所望有タキ旨奏問セラレケレバ、則日野大納言、飛鳥井大納言勅使トシテ南都ヘゾ參ラレケル、信長公同廿七日、奈良ニ御著アツテ多門ニ御座マス、翌日蘭奢待切セラル、

〔武德編年集成四十九〕慶長七年六月十一日、神君奏聞ヲ遂ラル、勅使勸修寺右大辨光豐、廣橋右中辨總光、神君ヨリハ本多上野介、大久保石見守長安、南都東大寺ニ至テ、寶庫勅封ヲ兩辨是ヲ截テ、戸ヲ開、黃熟香關待也ヲ截シム、香見柳原右少將業光也、中坊左近秀祐警固シ、幕下ノ步卒十人監使

タリ、○又見武德安民記

〔續近世畸人傳〕五、僧惠南

惠南、名忍、鐵號空華子、平安の人也、聞香に長じ、一時に鳴、連理燒合五味七國をき、まゐるのみならず、凡物の臭氣をきくこと常ならず、○中略何某の宮の御殿に、紅塵といへる名香あまたたくはへ給ふが、或時や、うせたれば、殿下の御沙汰となり、武邊に仰て搜しもとめ給ふに、惠南其ころ名譽あれば、殿下へめして、聞しらすやどとはせ給へども、もとよりしらぬことなれば、其旨申あげ